

Studio Q

スタジオ・キュー

2011
秋号

(年4回発行・通算72号)



SUMITEM

発行

住友セメントシステム開発株式会社

PCアプリケーション事業部 URL:<http://www.sumitem.co.jp>

ユーザーHPアドレス URL:<https://user.sumitem.co.jp/supernet/top.aspx>

主な記事

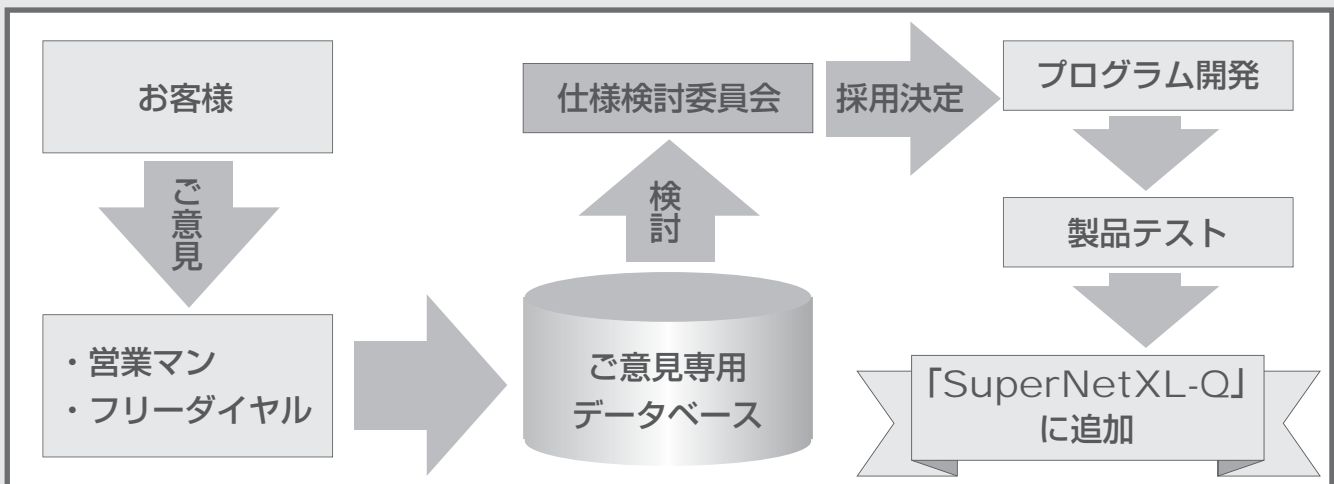
- ・お客様が「SuperNet XL-Q」を育てる
- ・Q&A
- ・知ればらくらくキーボードの機能2！
- ・コンクリート業界の進化

お客様が *SuperNet XL-Q* を育てる

「SuperNet XL-Q」はパッケージソフトですので、皆様に共通した機能・サービスをご提供しております。使用しているうちに「こうした方が使いやすい!」「これがあったら便利!」というご意見をお持ちになる方もいらっしゃるのではないのでしょうか?

今回は、そんなお客様のご意見がどのような経緯を経て、「SuperNet XL-Q」のバージョンアップに活かされているかという点についてご紹介したいと思います。

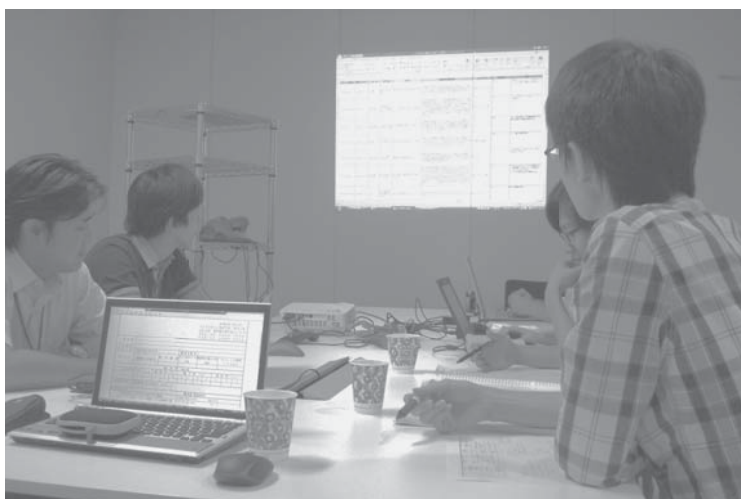
図 <ご意見が「SuperNetXL-Q」に反映されるまでの流れ>



「仕様検討委員会」という組織で、お客様からのご意見を検討しております。

仕様検討委員は合計 12 人で構成され、営業・開発・フリーダイヤル担当と各業務担当から選出されています。メンバーがご意見を検討する際に最も注意していることは、以下の 3 項目です。

- ① お客様全体に便利だと言ってもらえる機能になるか？
- ② 最も使い易くするには、どのようにすればよいか？
- ③ JIS 規格や生コンクリートの規定に沿った考えであるか？



検討会議は毎月定期的に行われております。また、議論はいつも 3～4 時間にも及ぶ白熱したものとなります。その間、上記の項目の①～③を踏まえ、真剣なやり取りが交わされることは言うまでもありません。やはりここでもメンバーの思いは、「お客様にいいものを使っていただきたい！」この一心です。

印象深いプログラムといえば、今では便利機能の一つに数えられる【現場写真印刷】。この機能は、何回も試行錯誤を重ねながら進化したプログラムの一つです。

当初は、デジタルカメラの普及と共に、「データとして現場写真も保存できるように」というコンセプトで、特別帳票の一つとして開発が進められました。当時の仕上がりは今とかなり違っており、画像データを取り込める「写真の貼り付け欄」と、その横に「メモ欄」が用意してあるだけのシンプルなものでした。そしてしばらく経つと、お客様から「『スランプ』『空気量』『強度』などを日次データから抜き出せるようにならないか？」とのご意見をいただくこととなります。

そのご意見を基に仕様検討委員会で議論を重ねられ、「日次データ入力からそのまま現場写真印刷に展開できるようになった方が、より便利になる！」というアイデアが加わりました。

そして、「フレッシュ試験枠」や「強度試験枠」が用意され、さらに「試験結果データ入力」に現場写真ボタンも追加され、製品・代行試験データごとに保存できる現在の仕様となりました。

このように、当社の「SuperNet XL-Q」はお客様によって育てられているシステムと言っても過言ではありません。それほど、お客様のご意見は大切なものなのです。

今度の JIS 改正も、この仕様検討委員会のメンバーで熱意を持って検討させていただきます。

メンバーにとって、お客様の「いいね～」の一言が一番の喜びです。

これからも「SuperNet XL-Q」をどうぞよろしくお願い致します。

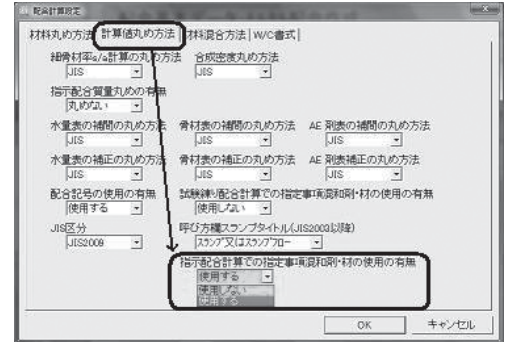
Q&A

今回の Q&A は、2008 年の JIS 改正対応以降、
ご質問の多い問合せについてまとめました。

(※一部、当社出荷管理システム「SuperNet PS-S」との連動部分も含まれております。)

1. 配合計画書・計算書・アルカリ・塩化物計算書

Q1 物件配合追加時に計画書配合を「標準配合」以外に設定した場合、
指定事項で登録した混和剤・材が配合計画書に反映しない。



A 「配合設計」⇒「丸め・混合方法などの登録」⇒「計算値丸め方法」
タグ⇒「指示配合計算での指定事項混和剤・材の使用の有無」を
[使用する]に変更してください。

Q2 本配合の適用期間に「修正標準配合」以外の名称で表示したい。

A 物件配合メンテナンス⇒「名称」をご利用ください。名称に登録いただいたものが優先して表示されます。また
修正標準配合の場合は、配合計画書の設定によって「修正標準配合 + 指示配合テーブル名称」という形式も選択いた
だけるようになっていきます。



Q3 納入書配合や配合設定値などの項目はどこに反映するの？

A 当社出荷管理システム「SuperNet PS-S」用の設定となります。「SuperNet XL-Q」単体でご利用の場合は、
設定の必要はありません。
(出荷管理の物件配合に納入書用の配合や練り配合値を指定できる機能です。)



2. 出荷管理・制御盤への配合転送

Q4 配合転送を行ったのに設定値しか登録されていない。(納入書用の配合表が登録されていない)

A 「出荷管理・制御盤への配合転送」⇒「基本設定」⇒「データの送り先」を [SuperNetPS-S (配合表)] に設定して、
再度転送作業を行ってください。



知ればらくらくキーボードの機能2!

日本語の入力では、確定する前にキーボードの [F6] ~ [F10] を使って、カタカナやアルファベットに変換できます。



ひらがなに変換する。



全角カタカナに変換する。



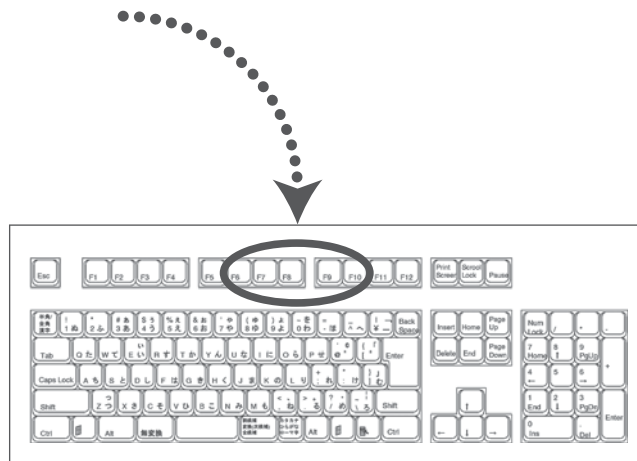
半角カタカナに変換する。



全角アルファベットに変換する。



半角アルファベットに変換する。



コンクリート業界の進化

終戦後の昭和24年に工業標準化法が制定され、その後に生コンクリートの JIS（日本工業規格）ができました。東京の業平橋（現在のスカイツリー建設現場）に、日本で初めての生コンクリート工場が誕生したのも、同じ昭和24年です。生コンクリート工業の歴史はここから始まります。

それまでのコンクリートは、施工する現場ごとに手練り（スコップ練り）や小型のミキサ練りによって作られていたようです。また、当時の材料の計量は極めて大雑把で、容積計量が盛んに行われ、建築用コンクリートは（セメント：砂：砂利）1：2：4、土木用コンクリートは1：3：6といった分かりやすい配合で練られていました。最も重要な水量は、現場で適度に調節していたようです。当時の誰も想像する事が出来なかったほど、この60数年間には技術の目覚ましい進歩がありました。設備に関しては、省力化された設備でオートメーション化による大量生産が可能になり、高品質の製品を作ることができるようになりました。さらに混和剤の登場で製造できる生コンクリートは多種に及ぶようになり、今日に至ります。「SuperNetXL-Q」もそのような生コンクリートを品質管理の面からサポートしています。これからも皆様の最良のパートナーになれるよう、「SuperNetXL-Q」は日々進化し続けます。

住友セメントシステム開発株式会社

本社	●〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30 芝NBFタワー 3F	TEL(03)6403-7864	FAX(03)6403-7873
大阪支店	●〒541-0052 大阪市中央区安土町 3-2-14 サンキュウビルディング 4F	TEL(06)6271-7110	FAX(06)6271-7122
札幌営業所	●〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 2-10-2 札幌 HS ビル 10F	TEL(011)232-1748	FAX(011)221-1017
福岡営業所	●〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 1-2-5 紙与博多ビル 8F	TEL(092)476-3377	FAX(092)476-3378
名古屋営業所	●〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 2-14-19 住友生命ビル 3F	TEL(052)566-2500	FAX(052)566-3285
東北営業所	●〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町 2-2-10 住友生命青葉通りビル 12F	TEL(022)263-1460	FAX(050)3737-0922